

# 太平洋クロマグロ2016年生まれ 加入量モニタリング速報 (第2段階 2016年12月)

国立研究開発法人  
水産研究・教育機構 国際水産資源研究所

- 島根県隠岐諸島周辺で操業した曳縄モニタリング船<sup>※1</sup>について、9～11月のCPUE（漁獲努力量あたり漁獲尾数）を日本海生まれの加入動向の指標として分析した；
  - 2016年の曳縄モニタリング船CPUEは、2013～2015年平均の2.5倍、前年比1.3倍であった（図1）。
- 曳縄漁船によって採捕された養殖用種苗の活込尾数（7～9月）を、南西諸島海域生まれの加入動向の指標として分析した<sup>※2</sup>；
  - 2016年の養殖用種苗活込尾数は、2011～2015年平均の1.5倍、前年比1.9倍であった（図2）。
- 上記から、2016年の日本海生まれおよび南西諸島海域生まれの加入量水準は、いずれも2015年を上回る可能性が高い。

※1: 島根県隠岐諸島におけるモニタリング調査は2013年から開始した

※2: 養殖用天然種苗に関しては、各県の一年当たりの活込尾数が2011年から増加することを防ぐため、2012年10月26日に農林水産大臣指示を発出している

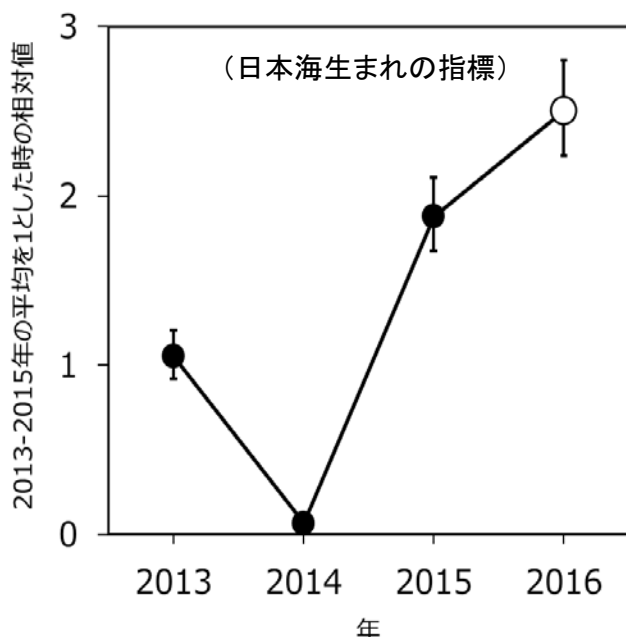


図1. 曳縄モニタリング船のCPUE（9～11月）。  
図中の垂線は95%信頼区間を示す。

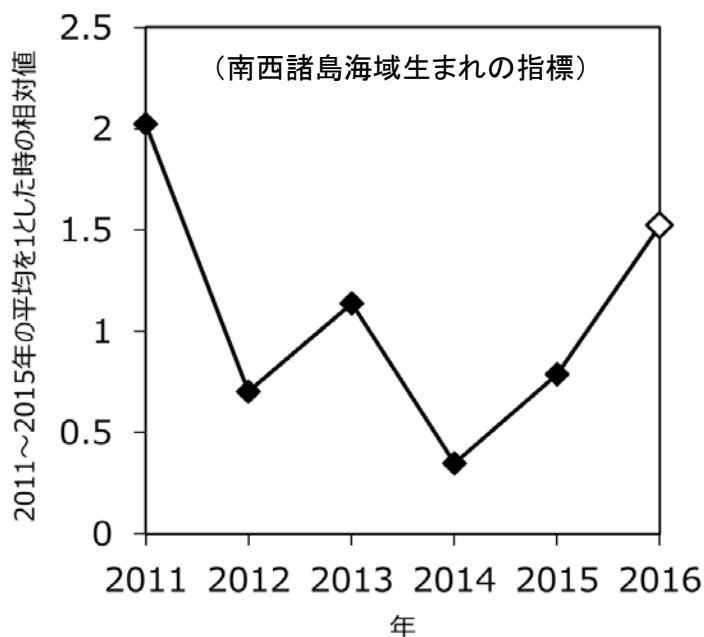


図2. 曳縄漁船によって採捕された養殖用種苗の活込尾数（7～9月）。